

〈小学校総合的な学習の時間部会〉

I 研究主題

- 児童の自己学習力の向上を図る個に応じた指導の充実
－ 専門機関等との連携を生かした「安心・安全」にかかわる単元開発を通して －

II 研究の概要

1 研究主題の設定

総合的な学習の時間をより豊かな内容にしていくためには、児童一人一人が主体的に学習を進め、児童の自己学習力の向上を図ることが第一と考えた。そのためには、児童一人一人が切実感と見通しをもって学習を行うことが重要である。そこで、一人一人の思いや願いを生かす「個に応じた指導」を充実させることが実現への第一歩と考え、本研究主題を設定した。

総合的な学習の時間で「個に応じた指導」を充実させ、児童の学びをより深め、広げるようにするためには、学習の道筋を広げる工夫が必要である。そこで、学校だけでなく広く関係機関等の人材を活用することで、個に応じた学習活動を効果的に展開するように、副主題を「専門機関等との連携を通して」と設定した。

2 研究の基本的な考え方と視点

本年度、開発委員会の研究を進めていく上で次の4点を研究の視点として掲げる。

(1) 安全・安心にかかわる単元開発

「安全・安心にかかわる単元開発」では、昨今必要性が高まってきた非行防止教育や犯罪被害防止教育の観点から、児童の学ぶ力を高め、学んだことを実際の生活に生かせる単元開発に取り組んだ。総合的な学習の時間における課題解決学習を通して、主体的に学習を進め、最後には自分の生命と安全を自分で守る能力を高めることができる学習内容となるように単元を開発する。

(2) 専門機関等との連携

「専門機関等との連携」では、児童の学習内容の深まりにあわせて、さらに専門的な知識やプロとしての生き方と出会わせるように、専門機関等の人材とかかわり合う機会を設ける。児童との出会いのタイミングや、事前の準備、場の設定など配慮すべき点を工夫する。

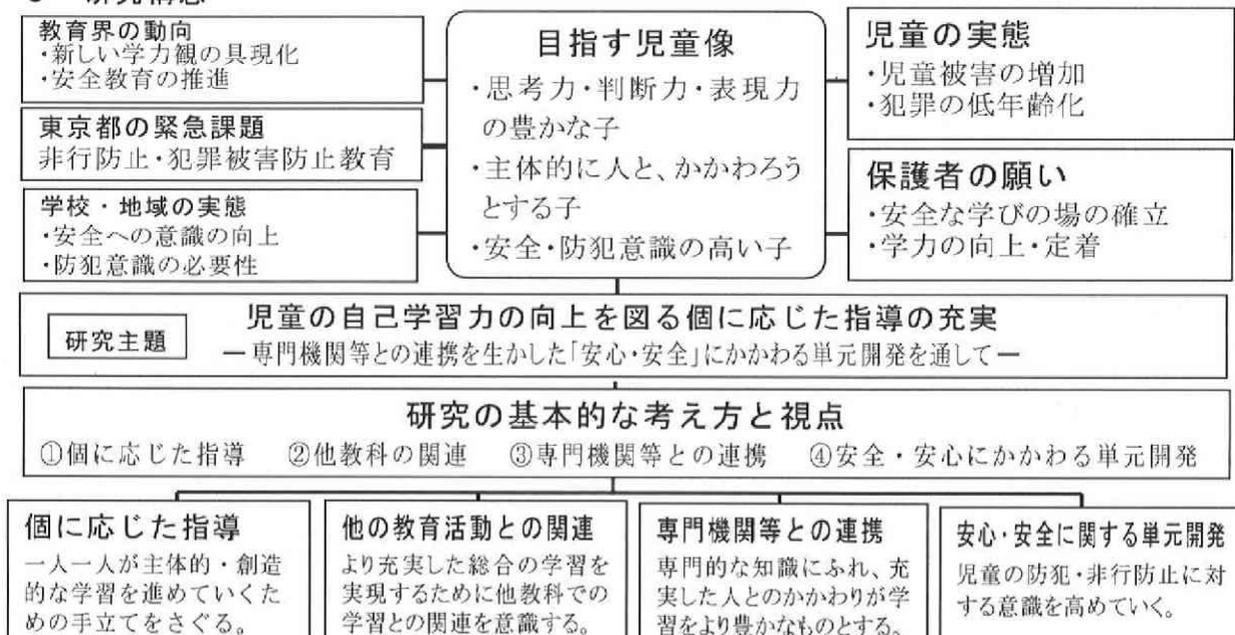
(3) 個に応じた指導

「個に応じた指導」の充実を図り、児童一人一人が主体的な活動を進められるようにするために、教師は児童個々の課題意識を把握して、指導を行うのか、また、課題解決の実現のため、児童に見通しをもった活動を意識付け、課題解決をするために、児童一人一人に対してどのような手立てが有効かを探っていく。

(4) 他の教育活動との関連

「他の教育活動との関連」では、豊かな総合的な学習の時間の学習を実現するために、どのような知識や能力等が必要かを検討した。他の教育活動における学習の成果を、総合的な学習の時間で総合的な学力として発揮できるように工夫する。

3 研究構想



III 研究の内容

1 「安心・安全」にかかわる単元開発

昨今、児童が事件に巻き込まれたり、誘拐等の被害にあつたりすることが増えている。一方、児童自身が重大な事件を引き起こすケースも見られる。このことから、学校における非行防止・犯罪被害防止教育の充実が社会的なニーズとなっている。従来の道徳教育や、特別活動の安全指導に加えて、総合的な学習の時間において「安全・安心」を取り上げることで、児童自身の危険予知能力、危機回避能力を高めるようにした。

○ 児童が切実感をもって学べる素材

総合的な学習の時間がねらうものは、非行防止・犯罪被害防止にかかわる対処法だけではなく、自ら学習課題を設定し、自分なりの解決方法で学びを積み上げることによって、自己学習力を高めることである。この学習の素材として、児童が自分の生活とかかわりがあり、切実感をもって追究できる「安心・安全」を取り上げることは効果的である。

○ 自らの生き方につなげて学べる素材

「安心・安全」にかかわる学習課題を追究する過程では、児童が自らの生活や生活環境を見直す機会が多くなる。また、自分たちを守ってくれる大人の存在を知り、かかわりをもつことで、自らの学習ばかりでなく、自身の生き方を考えるような学習の展開が期待できる。

2 専門機関等との連携

一人一人の児童の学習ニーズにこたえるためには、教師の指導だけでなく、専門的な知識や経験を有する外部人材の活用がより効果的であると考えた。日々変化する社会の諸事象を学習素材とするためには、指導に適切な情報を提供することが求められる。そこで、今日的な情報に対応していくために、外部の人材をどのような場面で活用するのが効果的であるか、また、どのようにかかわらせることによって効果を最大限に発揮できるかを模索した。

○ 地域の人々との交流

民生委員や警察官、スクールサポーターなどの地域の人材は、児童と普段から密接な関係にある。それらの人々とかかわりは親近感を高め、地域へのより深い愛着へとつながる。

○ 専門家から学ぶ

児童の課題解決に向けた学習が深まると、手元の資料だけでは対応できなくなる。そこで、専門家からより新しく臨場感のある情報を得ることによって、鮮明な事実と出会うことができる。また、専門家の職業に対する意識は、児童にとって、その役割や使命感といった本物の生き方にふれることによって、自分自身の今後の生活に必ずや反映されるであろう。

○ 企業やNPO(非営利組織)の活用

企業やNPOなどの協力を得ることにより、今までの学校では実現不可能であった機器等を活用した学習が可能となる。特に、インターネットや携帯電話などに基づく学習など専門的な知識に裏づけされた活動は、児童の生活に生きるものである。

3 個に応じた指導

児童が主体的に総合的な学習の時間の学習を実現するために、「個に応じた指導」の充実を図る。児童一人一人の創造的な学習意欲を持続させるために、どのような手立てが有効か探っていく。

○ 児童の課題意識の醸成

総合的な学習の時間の課題との出会いは、児童にとっては新しい学習内容との出会いとなる。そこで、児童の経験から課題となりうる材料を想起させるために多様な方法で課題意識を高めた。

○ 見通しをもった学習活動の展開

常に学習活動のゴールを意識させ、到達するための手順を明らかにすることによって、児童自身が見通しをもった主体的な活動に取り組めるようにしていく。

○ 相互評価の視点の明確化

クラス全体としての学習のレベルを向上させるために、教師が児童の活動を価値付けした後、友達同士による相互評価を行う。相互評価の観点を明らかにすることを意識していく。

4 他の教育活動との関連

学習指導要領の一部改訂により、総合的な学習の時間と各教科等との学習内容の相互の関連や計画的な指導の充実が求められた。そこで、他の教育活動と総合的な学習の時間との関連について工夫した。

○ 学習活動の前に身に付けておくべき知識や技能等の明確化

総合的な学習の時間の学習のめあてを達成するために、他の教育活動であらかじめ身に付けておかなければならない知識や技能を明らかにした。各学年の年間学習計画を見直し、他の教育活動の学習内容が総合的な学習の時間の学習活動に反映されるよう、題材構成の時期についても配慮した。

○ 学習活動を進める上で必要な能力の検討

各教科等、他の教育活動で学習した内容の関連とともに、そこで身に付けた資料活用能力、思考力、などの能力の総合的な学習の時間の学習活動への生かし方を検討した。

○ 総合的な学習の時間で培われた諸能力を他の教育活動に生かす

課題解決の学習等を通して培われた能力は、その後、他の学習にも反映されることが重要である。そのためにも、総合的な学習の時間を単なる知識や技能の習得に終わらせず、他の教育活動への広がりや発展を意識したまとめを心がけた。児童同士のかかわり合いの発展や、社会や理科、国語といった各教科の学習での表現活動の充実を図る。

IV 実践事例

1 単元名「安全なくらしをつくろう」(第5学年)

(1) 単元について

充実した学校生活をおくるためには、児童自身が身のまわりの生活を見つめ、自ら安全を確保できるようにすることが求められる。このことは、正に児童自身の生活にかかわる問題であり、切実感をもって学習を行うことができる素材であるにとらえた。そこで、身の周りの安全を考えることで自分の生活を見直し、「自分たちのまわりで起きている問題について目を向け、解決策を考え番組にして発表しよう」という学習目標を投げかけた。自分の考えに沿って追究、表現できる学習を期待した。

(2) 個に応じた指導

本単元は非行防止・犯罪被害防止教育を意識したものになっているが、専門機関等の人から話を聞き質問をするような学習形態とは異なる。今回の学習ではあらかじめ一人一人の児童に安全について関心をもっていただくことを前提に学習を進めた。またまとめる段階でも何度も専門機関等の人に質問する機会を設け、納得がいくまで学習を進めることができるようにした。

(3) 他の教育活動との関連

国語の「話し方・聞き方」の学習では事前に考えていた質問を発表し、答えを記録するだけでなく相手の話の内容に合わせて質問の質を高めていくように指導した。また、社会の「安全なくらし」、「情報産業」の学習と深く関連させ、番組づくりをするときには「打ち合わせ・原稿づくり・撮影のポイント」を地域のテレビ制作部の関係者と何度も児童が打ち合わせるにより、効果的に表現する能力を高めるようにした。

(4) 外部人材の活用

児童の興味・関心に応じた外部人材を決める際に特に配慮すべきことは、「児童がいつでもかかわれる人材」であった。児童が何度も取材活動をするだけでなく、同じ地域に住む人々の思いを児童に伝えてもらう双方向の授業展開を考えた。本単元の学習を終えても登下校の際のあいさつや、地域の祭りでの交流まで発展させ、身近な人としてこれからの生活の中でも意識化させるところまで期待したい。

(5) 単元の計画

(16単位時間)

つかむ (2時間)

- 課題づくりのために、身のまわりの生活から安全を脅かす事象をあげていく。
- ・「自分たちの日常生活を振り返って、危ないなど実感していることをいくつかあげていく。」
- ・「全員で作成した危ないことをまとめた図を見ながら、活動していくグループを決定していく。」



むかう (10時間)

- 自分がもう少し知りたい、調べたいと思うことをゲストティーチャーに質問する。
- ・9グループに分かれて、事前に質問することをまとめて、優先順位を決めてグループごとに質問する。
- ・質問したことをまとめて、さらに詳しく調べるために課題を見直す。
- ・たくさんある課題の中から、詳しく調べていくことを一本化していく。
- ・グループで必要に応じて、再度外部人材に來校してもらう。
- ・テーマに沿った番組を作る。
- ・一本化した安全にかかわる問題について、解決策を入れながらVTR(画像6枚)にまとめる。



生かす (4時間)

- 製作したVTRを見て、様々な安全・防犯に関することを知り、再度、身の回りの安全について考える。
- ・VTRを見るだけではなく、お世話になった人、地域の人に情報を発信する。
- ・学校のセーフティ。教室の際の資料として提示する。

(6) 本時の展開

(「むかう段階」4時間 単元6/16)

① ねらい 自分が安全について知りたいと思うことを、積極的にゲストティーチャーに質問することを通して安全なまちづくりのための取組があることを理解する。

② 展開の概要

学 習 内 容			評 価 ・ 留 意 点
[授業前] グループの質問を明確にしておく。 「災害・犯罪・テロ・児童の危険・不審者・ピーポ君の家・どろぼう・交通・迷惑なこと」			<ul style="list-style-type: none"> 3学級の担任が担当を3つずつに分ける。 活動場所を確認する。
1 本日のオリエンテーション ・学習の流れをつかむ。 「身のまわりの安全」について自分が知りたいことをゲストティーチャーに質問しよう。 ・ゲストティーチャーを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">民生・児童委員 T警察署員</div>			<ul style="list-style-type: none"> 外部人材に児童の質問をある程度伝えておく。 ゲストティーチャーの職務の概要などを補説する。
2 分からないこと、知りたいことについて質問を積極的に行う。			<ul style="list-style-type: none"> 質問の優先順位を確認させる。 【評価・学ぶ意欲】 質問を積極的に行い、分かったことの内容を記録として残している。 【評価・学び方】
民生・児童委員1	民生・児童委員2	T警察署員	
地域での安全にかかわること	地域での安全にかかわること	犯罪被害などにかかわること	
<ul style="list-style-type: none"> ゲストティーチャーの話聞くことも大切であるが、今回の学習では自分たちがこれから調べていくことについても質問する。 質問する中で、相手が一番伝えたいことを感じ取る。また、聞いている中で生じた質問もしてもよい。 			<ul style="list-style-type: none"> 質問事項を事前に考えたり、相手の話し方に合わせて学習を進めたりしている。 場当たりの質問をするのではなく、児童の思い、外部人材の思いを事前に明確にしておく。
3 今後の学習の見通しをもつ。 ・本時の学習を振り返り、学習カードに記入する。 → 話を聞いたままにするのではなく、自分で考え必要と思う情報などを個人のカードにまとめていく。			<ul style="list-style-type: none"> 児童のがんばりを認め、今後の学習の意欲付けを行う。
授業後 学習カードを担当に確認してもらう。			

(7) 考察

「安全」にかかわる事象を総合的な学習の時間で扱うことに関して、事前に学習時間外は学習カードを担当が保管すること、学校内のインターネット環境のみを使用することを担当教師で確認しておいた。そのため、人権上配慮を要することに関して、教師側でほぼ把握することができた。児童は学習を始める段階で、安全に関してたいへん興味・関心をもっていた。また、身近にいて知らなかった日ごろ安全な生活を守る人々に今の段階で気付くことができた。この学習を設定した最大の利点は、外部人材が、「学校にこれだけ協力できたことがうれしい。普段思っていることを児童に伝えられてよかった。」など、双方向の連携・協力ができたことである。

2 単元名 「輝け！わたしの未来」(第6学年)

(1) 単元について

現在、全国的に少年犯罪が問題となっている。東京都においても、少年が被害者となる事件が少なくない。児童は、新聞やテレビなどで少年がかかわった事件などを見聞している。しかし、現実には自分の身近な問題としてとらえている児童は少ない。これからの世の中を生きていく児童にとって「犯罪を起こさない」「犯罪に巻き込まれない」能力や態度を育てることが必要であると考えます。

少年犯罪にかかわる事象を素材とした学習活動を行うことによって、犯罪を自分の身近な問題として切実感をもってとらえることができると考える。そして、この学習を通して自分たちが安全に安心して生活していくためにはどのようにすることが大切なのかを考えさせたい。さらに、ゲストティーチャーなどにかかわる学習を通して人としての在り方や生き方についても考えることができるようにしたい。

(2) 個に応じた指導

ア ゲストティーチャーの活用

児童が共通の情報を得るために警察等の諸機関と連絡を図り身近で起きている事件について紹介してもらおう場を設ける。

イ 学習カードの活用

「少年犯罪」について考える学習を計画するため、個々の経験や家庭環境などを配慮した計画を立て、学習を進めることが大切である。興味本位の学習にならないよう個々の指導をしっかりと行いたい。学習状況を把握し適切な指導・援助ができるように学習カードを活用していく。

(3) 他の教育活動との関連

国語科の学習で養った「自分の考えを発表、表現する力」、「調べたことをまとめ、表す力」、「インタビューする力」や社会科の「資料を収集する力」、「社会事象を調べる力」、算数科の「図表を読み取る力」、体育科における保健分野の「健康に関する知識」などを生かして課題解決学習を展開できるようにする。

(4) 専門機関等との連携

ア 課題づくりにかかわるゲストティーチャー

警察署少年課のスクールサポーターに身近な地域の犯罪についての話を聞く。自分たちの生活圏における具体的な話を聞くことによって、児童が関心をもって学習に取り組むことができるようにする。

イ 自分の課題をより明確にするために、知りたいことや疑問に思ったことを警察官、裁判所の調査官や商店主にインタビューしたり、話を聞いたりする活動を取り入れる。学習の内容を現実的にとらえ、自分の課題をより明確にできるようにしたい。

(5) 単元の計画

(14 単位時間)

児童の活動 (時間)	◆ ねらい
<p>(1)少年犯罪について話し合おう ②</p>	<p>◆少年犯罪について知り、身近な問題としてとらえることができる。</p>
<p>①少年犯罪の実態について知る。(1) ②犯罪について考え、調べる計画を立てる。(1)</p>	<p>○警察署少年課の人に少年犯罪の実態等の話をしてもらう。</p>
<p>(2) 犯罪について知り、自分の課題を調べよう ⑥</p>	<p>◆犯罪の態様や現状について調べることができる。</p>
<p>①自分の計画に沿って調べる。(3) ・資料、インターネット等で調べる</p>	<p>○ゲストティーチャー(警視庁、家庭裁判所、書店組合)に何を聞きたいかを考えておく。</p>
<p>②専門の人に聞きたいことを考える。(1)</p>	
<p>③犯罪にかかわる仕事についている人に質問したり、話を聞いたりする。(1)本時</p>	
<p>④調べたことや話に聞いたことから、新たな自分の課題を見付ける。(1)</p>	
<p>(3) 被害者・加害者にならないための方法を調べ、これからの生活に役立つマニュアルを作ろう ④</p>	<p>◆被害者、加害者にならないことを視点におき調べたことをまとめ、発表することができる。</p>
<p>①課題を決め、調べ、まとめる。(3)</p>	
<p>②発表会をしよう。(1)</p>	
<p>(4) 犯罪に巻き込まれないための各自の考えをまとめる。②</p>	<p>◆犯罪に巻き込まれないための必要なことを自覚することができる。</p>
<p>①自分で調べたことや発表会で見聞きしたことから、犯罪に巻き込まれないようにするにはどうしたらよいかを考え作文で表現する。(2)</p>	

(6) 本時の展開

(7時間 単元7/14)

- ① ねらい ・ゲストティーチャーにインタビューをして自分の問題を解決することができる。
・ゲストティーチャーとのやりとりから犯罪について多面的に考えようとしている。

② 展開の概要

子どもの活動・留意事項

- 1 本時の活動の見通しをもつ。
 - ・今日の活動を確認する。

専門機関や被害にあった人たちに自分の疑問を質問する学習を通して、問題解決に役立てよう。

- 2 課題を追究する。
 - ・A、B、C三つのグループに分かれ、ゲストティーチャーに質問をして自分の知りたいことや疑問を解決する。あらかじめ用意しておいた質問を基にグループの司会が話を進めるようにする。
 - ・12分ずつローテーションをしてどのゲストティーチャーにも質問できるようにする。

警察官

- 犯罪の種類や数(ひったくり、空き巣、詐欺等について)はどのくらいあるのだろうか。
- 犯罪は何時ごろ多いのだろうか。
- 薬物にはどのような被害があるのか。

元裁判所調査官

- 犯罪を起こしてしまう人はどういう気持ちでするのか。
- どのような家庭環境の人が犯罪をするのか。
- 少年院での生活で更正されるのか。

被害者(書店組合)

- どのような本が万引きされるのか。
- 万引きを見付けたらどのように対処するのか。
- 万引きされない工夫はしているか。
- どのくらい万引きされているのか。

・時間内では聞くことができなかったことやもう一度確かめたいことなどを自由に聞きに行き、質問する時間を設ける。

- 3 本時の活動を振り返る。
 - ・ゲストティーチャーから児童へのメッセージなど伝えてもらう。
 - ・インタビューをした内容をもとに、自分の課題を考えられるようにまとめる。

(7) 考察

専門職のゲストティーチャーとの学習から、児童は様々な資料を基にした調べ学習では解決できなかったことについて具体的に分かりやすい情報を得ることができた。専門的な知識や経験を有するゲストティーチャーの話は、児童の心に響き、児童自らの生き方を振り返るきっかけにもなった。

この学習を通して、児童は日常生活の中で、これまでより「犯罪」に目を向けるようになった。安心・安全に生活をしたいという気持ちも高まり、学ぶ楽しさを体得することができた。

3 単元名 「インターネット、光と影」(第6学年)

(1) 単元について

パソコンや携帯電話などのハイテク機器の普及は、多くの不可能を可能にしている。学校における調べ学習では、自宅のパソコンからインターネットを自由に活用して資料を引き出してくる児童もいて、インターネットの便利さを十分に感じている。一方、快適に活用するための法整備やマナーの確立が追い付かず、新たな犯罪の温床にもなっており、児童の生活にも影響を及ぼしている。すでにハイテク機器のユーザーとなっている児童に、安全で正しい活用の仕方を主体的に調べさせ、情報リテラシーとともに学ぶ力を高めていくことは重要と考え、本単元を設定した。

(2) 個に応じた指導

本単元で取り上げる事象は、児童の経験によって個人差が生じる。NPO法人や企業などの協力を得て模擬体験を実施したり、数多く作成されているパンフレットなどの資料を効果的に提示したりして、児童の経験による個人差を縮めるようにした。

課題解決に当たっては、同じ課題をもつグループで学習することによって、相互に刺激し合い、高め合うような指導・援助を行う。また、学習状況の共有や自らの学習の問題点に気付けるように助言する。

(3) 他の教育活動との関連

国語科の「目的や意図に応じて考えたことや伝えたいことを的確に話す」学習、「考えたことを効果的に表現する」学習の成果を生かすようにする。また、社会科では、「人々の安全を守る機関の働き」などの既習事項を想起させながら、「目的に合った事象を具体的に調査し、資料を効果的に活用する」力を生かして学習を進めることができるように指導・援助を行う。自分の考えを発表、表現する力、「調べたことをまとめ、表す力」、「インタビューする力」や社会科の「資料を収集する力」、「社会事象を調べる力」、算数科の「図表を読み取る力」、体育科における保健分野の「健康に関する知識」などを生かして課題解決学習を展開できるようにする。

(4) 専門機関等との連携

ア 模擬体験

実際の機器を用いてパソコンや携帯電話からインターネットに接続するなどして、好ましい活用にかかわる体験をさせる。そのために、NPO法人や企業の協力を得るようにする。

イ 専門家からの取材

児童が問題として課題解決に向けた学習を進められるように、インターネットを媒介とした犯罪などについて、現役の警察官から事例などを聞き、危機感や課題意識をもたせるようにする。

(5) 単元の計画

(12 単位時間)

学習活動・工夫	評価計画
<p>出会う 2時間</p> <p>インターネットや携帯電話についてよく知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットのよさと課題 ・携帯電話の課題 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットや携帯電話の正しい使い方に関心をもつ。
<p>深める 7時間</p> <p>専門家の話を聞こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットと携帯電話の便利なところ ・インターネット、携帯電話と犯罪 ・携帯電話を使った模擬体験 <p>課題を決めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーにさらに聞きたいこと <p>疑問を明らかにして、自分の意見を持つ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疑問を明らかにしたり、自分の意見を聞いてもらったりするために、再度ゲストティーチャーの招致 ・課題の修正 <p>課題についてくわしく調べよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料収集・選択 ・情報交換 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険を回避して活用する方法を調べることに関心をもつ。 <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全に使うための方法について調べるための課題をもつ。 <p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイテク機器にかかわる基本的な用語を理解する。 <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を整理して課題を修正する。 ・聞きたいことが相手に伝わるように考えをまとめる。
<p>表現する 3時間</p> <p>ハイテク機器を安全に使うためのハンドブックを作ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険が一目でわかるもの ・便利さと危うさが分かるもの <p>受け取った人の感想を伝え合おう。</p>	<p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイテク機器の安全で正しい活用の仕方を考える。 <p>【技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報を適切に活用して、自分らしいパンフレットにまとめる。 <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを生かして将来的によりよい利用者になろうとする。

(6) 本時の展開

(7時間 単元2/12)

- ① ねらい ・インターネットや携帯電話のよさなど模擬体験や専門家の話を通して知り、自分の学習の方向性をつかむ。

- ・インターネットや携帯電話にかかわる危険の回避など、自分の課題を見付けようとする。

② 展開の概要

児童の活動	評価・留意事項
<p>1 前時を振り返り、インターネットや携帯電話のよさや問題点などについて確認する。</p> <p>2 本時の学習の進め方を確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>もっとくわしく専門家話を聞こう</p> </div> <p>・インターネットや携帯電話にかかわるゲストティーチャーの話聞く。</p>	<p>・前時にまとめたカードを掲示し、児童の意識の方向付けを行う。</p> <p>・警察官とNPO法人関係者を紹介する。</p> <p>【関心・意欲・態度】 インターネットや携帯電話のよさや問題点などについてさらに調べようとしているか。</p>
<p>3 インターネットや携帯電話のよさや問題点などにかかわる課題を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分の経験やゲストティーチャーの話などからインターネットや携帯電話のよさや問題点などにかかわる課題を考えよう。</p> </div> <p>・簡単な感想を書いて発表し合い、課題になりそうなことを見付ける。</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>・本時に話題に上らなかった事柄についても、課題意識をもって考え出すことを知る。</p>	<p>【思考・判断】 ゲストティーチャーの話に基づいて安全に正しく活用するために追究すべき課題を考える。</p> <p>・課題になりそうな児童の発言は板書にとどめるようにする。</p> <p>・感想カードに記入させる。</p>

(7) 考察

本単元では、ゲストティーチャーに2度来校して児童の疑問に答えてもらう形をとった。児童にとって携帯電話などIT機器をめぐる事件は、ややもすると新聞やテレビで見聞する自分とはかわりのない出来事のように考えがちである。今回、直接、警察官から話を聞いたことで、多くの児童が人ごとではないという切実感をもった。また、NPO法人などの協力による模擬体験は、自分の課題を設定するよいきっかけになった。このことから、個々の児童が課題を絞り込み、自分らしさを生かした調べ学習が展開できた。再度のゲストティーチャーとの学習での児童の質問は、まさにその児童ならではの質問となるなど、一人一人の学びが鮮明になった単元学習であった。

V 研究のまとめ

【 成 果 】

1 安全・安心にかかわる単元開発

- ・ 児童が日常生活と常にかかわっている「安全・安心」にかかわる素材は、児童の主体的な課題解決学習の題材として適切である。
- ・ 「安心・安全」にかかわる素材を媒介とした学習は、児童の生活の場である地域を見つめ直す一つの視点として有効である。
- ・ 「安心・安全」にかかわる事象を媒介とした学習は、その後の児童の危険予知能力、危機回避能力を高めるとともに、地域や保護者と密着した活動に発展するものであった。

2 専門機関等との連携

- ・ ゲストティーチャーとの事前の打ち合わせを周到に行うことで、児童の学習ニーズにこたえる学習が展開できる。
- ・ 児童の学習課題に応じて、ゲストティーチャーのかかわり方など、学習形態を工夫することがゲストティーチャーの効果的な活用につながる。
- ・ 児童がゲストティーチャーと身近に接する場を設定することで、地域の人々とのふれあい、地域への愛着がより深まる。
- ・ 児童の学習課題に関する専門家との出会いは現実と密接に対峙する貴重な経験となる。

3 個に応じた指導

- ・ 児童が学習課題を設定する際の指導・援助を適切に行うためには、児童が日常考えていることの意識調査や学習内容に関する体験などの実態調査を活用することが効果的である。
- ・ 児童が主体的な課題解決を継続的に行うようにするためには、学習の過程で児童の活動への「価値付け」を全体で行うことが有効である。
- ・ 次の学習活動に対する意欲を高めるためには、1時間1時間の豊かな学習経験の積み重ねが大切である。

4 他の教育活動との関連

- ・ 総合的な学習の時間の学習活動において、教師が適切な指導・援助・助言を行えるようにするためには、他の教科などで確実に身に付けておかなければならない能力を明確にしておく必要がある。
- ・ 社会科の資料活用能力や、算数でのグラフ化の知識や技能など、各教科等で身に付けるべき諸能力を高めることが、児童の主体的な学習につながる。
- ・ 学習内容によっては、他の学習との関連を考え、単元配列などを工夫する要である。

【 課 題 】

1 外部人材とかかわる際の教師の役割と評価

外部人材とのよりきめ細やかなかわりを実現しようと、人数を増やし少人数グループでの学習活動の場を設定すると、逆に児童一人一人に目が届かなくなってしまう。個の学習状況を評価しつつも全体を掌握するためには、事前の児童の課題解決の状況を詳しく把握した上で活動に臨まなくてはならない。

2 関係機関等との相互連携の充実

学習に協力をしてくれる専門機関等の関係諸機関のニーズと学校のニーズの調整を図り、相互にメリットがある連携の在り方を明らかにする必要がある。